

平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年8月8日

上場会社名 株式会社 シーマ
 コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 資本政策部長
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月13日

(氏名) 白石 幸栄
 (氏名) 柳田 純克

TEL 03-3567-8098

上場取引所 JQ

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	2,700	—	63	—	54	—	19	—
20年3月期第1四半期	2,666	18.2	163	952.0	180	540.8	90	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	0.11	—
20年3月期第1四半期	0.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第1四半期	8,770	—	5,499	—	62.7	—	29.92	
20年3月期	8,761	—	5,662	—	64.6	—	30.82	

(参考)自己資本 21年3月期第1四半期 5,499百万円 20年3月期 5,662百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	1.00	1.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	6,213	—	344	—	327	—	153	—	0.84
通期	13,165	10.3	1,122	11.0	1,086	2.3	552	△3.9	3.00

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 — 社(社名) — 除外 — 社(社名)(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は5ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は5ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第1四半期	183,765,644株	20年3月期	183,765,644株
② 期末自己株式数	21年3月期第1四半期	624株	20年3月期	605株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第1四半期	183,765,031株	20年3月期第1四半期	183,765,118株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に掲載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績などは、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用に当たっての注記事項などについては、4ページ「【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界経済の減速懸念、原油・原材料価格の一層の高騰、急激な為替変動などにより、景気の不透明感が強まる状況となりました。

このような経済状況のもと、当社グループ（当社、連結子会社）は、中核事業であるブライダルジュエリー事業の売上が引き続き堅調に推移したものの、新規出店などにより費用が増加したため、当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高27億円（前年同四半期比1.3%増）、営業利益63百万円（同61.4%減）、経常利益54百万円（同70.0%減）、四半期純利益19百万円（同78.6%減）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

<ブライダルジュエリー事業>

主力のブライダルジュエリー事業（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド）の業績は、売上高26億10百万円（前年同四半期比1.3%増）、営業利益65百万円（同60.8%減）となりました。売上高は、過去最高を記録した昨年度実績以上の高い水準を維持しましたが、利益面においては、大型店を含む新店舗5店を当第1四半期連結会計期間に開設し、費用が増加したため、前年同四半期に比べ減益となりました。しかしながら、中長期的には、積極的な新規出店により収益が増大し、利益の底上げにつながると見込んでいます。

当第1四半期連結会計期間におけるブライダルジュエリー事業の主な施策などは、以下のとおりです。

1) 新店舗5店開設

当社でも最大級の店舗「銀座ダイヤモンドシライシ池袋店」を含む新店舗5店を開設しました。同5店舗の売上は、社内計画に対し開設当初より好調に推移しました。

- 4月26日 「エクセルコダイヤモンド静岡店」を開設
- 5月22日 「銀座ダイヤモンドシライシ宇都宮店」をインショップから路面店として移転・開設
- 6月8日 「銀座ダイヤモンドシライシ横浜モアーズ店」を移転・開設
- 6月14日 「銀座ダイヤモンドシライシ松本本店」を開設
- 6月28日 「銀座ダイヤモンドシライシ池袋店」をインショップから路面店として移転・開設

2) 商品力強化

販売増に大きく貢献する有力商品5シリーズを4月に発表しました。

（銀座ダイヤモンドシライシ）

- ・オリジナルマリッジリング・シリーズ“F e l i c e（フェリーチェ）”、当社3ブランドのオリジナルマリッジリング販売本数ランキングで、発表以来突出の1位を維持する人気商品となりました。

（エクセルコダイヤモンド）

- ・セットリング“E l i s a b e t h（エリザベート）”、同ブランドにおける販売本数ランキングで発表以来1位を維持する人気商品となりました。
- ・オリジナルマリッジリング・シリーズ“V i o l a（ヴィオラ）”

（ホワイトベル）

- ・オリジナルマリッジリング・シリーズ“S y m p h o n i a（シンフォニア）”
- ・オリジナル“新作セットリング”

3) 提携先ホテル・式場数の増大と提携関係のさらなる強化

4) ギフト販売の好調な伸び

（売上45百万円、前年同四半期比46.2%増となりました。）

5) ティアラ・レンタルサービスの顕著な伸び

（提携先数は本年3月末から5社増加し、売上は前年同四半期比で167.6%増と倍増しました。）

以上により、ブランド別売上は、エクセルコダイヤモンドが前年同四半期比17.0%増、ホワイトベルが同40.6%増と好調に伸張しましたが、銀座ダイヤモンドシライシは、同7.5%減となりました。

銀座ダイヤモンドシライシにおける売上減の主な要因は、「宇都宮店」、「横浜モアーズ店」および「池袋店」の移転にともない、当時の既存店舗において、販売休止期間が発生（平成20年3月13日および平成20年4月22日付けプレスリリースにて情報開示）したためです。今後は、移転・開設した同3店舗が、同ブランドの売上に大きく寄与することが見込まれます。

また、ブライダルジュエリー事業における商品部売上など本社関連“その他”の売上は、前年同四半期比83.4%増となりました。（以下の①ブランド別売上高をご参照願います。）

<ウエディングプロデュース事業>

ウエディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの当第1四半期連結会計期間における業績は、売上高90百万円(前年同四半期比0.7%減)、営業損失2百万円(前年同四半期営業損失：4百万円)となりました。

①ブランド別売上高

事業の種類別セグメントの名称	ブランドの名称など	当第1四半期連結会計期間(千円) (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	前年同四半期比(%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	1,640,881	92.5	60.8
	エクセルコダイヤモンド	791,689	117.0	29.3
	ホワイトベル	165,060	140.6	6.1
	その他(注)2	12,423	183.4	0.5
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘(注)3	90,720	99.3	3.3
合計		2,700,775	101.3	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部売上など本社関連の売上となっています。

3. 「オリーブの丘」は、株式会社トゥインクルスターのブランド名です。

4. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

②販売・サービス別売上高

事業の種類別セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第1四半期連結会計期間(千円) (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	前年同四半期比(%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	2,501,317	100.6	92.6
	ファッションジュエリー販売	48,203	94.0	1.8
	ギフト販売	45,916	146.2	1.7
	ウエディング送客サービス	11,646	180.9	0.4
	その他(注)2	2,972	304.8	0.1
ウエディングプロデュース事業	ウエディングプロデュースなど	90,720	99.3	3.4
合計		2,700,775	101.3	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。

3. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産の部)

流動資産は、新規出店などにより商品が増加したものの、現金及び預金や売掛金が減少したことにより、前連結会計年度末に比べて2億3百万円減少して63億21百万円となりました。また、固定資産は、有形固定資産、敷金及び保証金などの増加により、前連結会計年度末に比べて2億11百万円増加し、24億48百万円となりました。この結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて8百万円増加し、87億70百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、その他などの増加により、前連結会計年度末に比べて51百万円増加して29億23百万円となりました。固定負債は、長期借入金、長期未払金などの増加により、前連結会計年度末に比べて1億21百万円増加し、3億47百万円となりました。この結果、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億72百万円増加し、32億71百万円となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、四半期純利益および剰余金の配当を加減算した結果、利益剰余金が前連結会計年度末に比べて1億64百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて1億63百万円減少し、54億99百万円となりました。

結果として、自己資本比率は62.7%となり、当第1四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は29円92銭となりました。

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は7億71百万円となり、前連結会計年度末に比べて3億68百万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、5億24百万円の支出となりました。営業収入は28億42百万円(前年同四半期28億19百万円)と増加したものの、人件費の支出、その他の営業支出、法人税等の支払額などが増加した結果です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億64百万円の支出となりました。新規出店にともなう支出と、敷金及び保証金の差入などによる結果です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、3億20百万円の収入となりました。短期借入れによる収入などによる結果です。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く主な事業環境であるブライダルジュエリー市場は、企業間競争の厳しさが今後も予想されますが、当社グループの当期の連結会計年度(平成20年4月1日～平成21年3月31日)における業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性により、良好に推移する見通しです。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、ブライダルジュエリー事業を中心に、当社グループの各事業・各店舗の特長を最大限に生かした販促・広告宣伝活動を行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上を目指します。

さらに、提携先ホテル・式場などを通じて、オリジナルギフト『ALIOS』(アリオス)の販売をより積極的に展開していくとともに、ダイヤモンド・ティアラのレンタルサービスを拡大していきます。

また、ウェディングプロデュース事業を展開する株式会社トゥインクルスターは、組織の抜本的見直しによる営業体制の強化および経費削減効果に加えて、新規提携先の拡大などによる収入増が期待されることから、通期での黒字化を見込んでいます。

その他、上記以外の新規事業、M&Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

なお、ブライダルジュエリー事業での新規出店については、10店舗を目途に効率的に展開していきたいと考えています。

以上により、平成21年3月期の業績予想につきましては、平成20年5月9日に公表しました「平成20年3月期 決算短信」における業績予想に変更はありません。

※ 本資料の上記の予想は、発表日現在において、入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

2. 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として個別法または総平均法による原価法によっていましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号平成18年7月5日）が適用されたことにもない、主として個別法または総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法）により算定しています。

これによる営業利益、経常利益、および税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	771,426	1,139,525
売掛金	484,375	586,762
商品	4,824,030	4,534,738
前払費用	91,193	94,276
繰延税金資産	31,655	54,979
その他	122,836	119,881
貸倒引当金	△4,023	△5,490
流動資産合計	6,321,495	6,524,673
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	859,556	729,298
車両運搬具(純額)	463	488
工具、器具及び備品(純額)	370,918	348,642
建設仮勘定	8,404	7,393
有形固定資産合計	1,239,343	1,085,823
無形固定資産		
ソフトウェア	15,662	15,967
電話加入権	5,504	5,504
無形固定資産合計	21,166	21,471
投資その他の資産		
長期前払費用	60,543	67,996
敷金及び保証金	1,088,637	1,024,793
繰延税金資産	37,012	35,463
その他	1,939	1,678
投資その他の資産合計	1,188,133	1,129,931
固定資産合計	2,448,643	2,237,226
資産合計	8,770,138	8,761,900

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	318,284	340,138
短期借入金	1,705,037	1,300,061
1年内返済予定の長期借入金	82,614	62,056
未払金及び未払費用	435,132	437,126
未払法人税等	14,142	336,718
前受金	282,295	298,628
その他	86,249	97,993
流動負債合計	2,923,755	2,872,722
固定負債		
長期借入金	121,994	66,944
退職給付引当金	77,416	72,924
長期未払金	147,954	86,447
固定負債合計	347,364	226,316
負債合計	3,271,120	3,099,039
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,183,010	2,347,411
自己株式	△69	△68
株主資本合計	5,497,327	5,661,728
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△99	△99
繰延ヘッジ損益	—	△442
為替換算調整勘定	1,791	1,675
評価・換算差額等合計	1,691	1,133
純資産合計	5,499,018	5,662,861
負債純資産合計	8,770,138	8,761,900

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
売上高	2,700,775
売上原価	882,677
売上総利益	1,818,098
販売費及び一般管理費	1,754,793
営業利益	63,305
営業外収益	
受取利息	0
雑収入	440
営業外収益合計	441
営業外費用	
支払利息	7,744
為替差損	1,602
雑損失	200
営業外費用合計	9,547
経常利益	54,199
特別利益	
貸倒引当金戻入額	1,499
役員退職慰労引当金戻入額	1,500
特別利益合計	2,999
特別損失	
固定資産除却損	8,283
特別損失合計	8,283
税金等調整前四半期純利益	48,915
法人税、住民税及び事業税	7,775
法人税等調整額	21,775
法人税等合計	29,550
四半期純利益	19,364

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
営業収入	2,842,024
原材料又は商品の仕入れによる支出	△1,264,447
人件費の支出	△707,593
その他の営業支出	△1,067,684
小計	△197,700
利息及び配当金の受取額	0
利息の支払額	△8,395
その他の収入	2,388
その他の支出	△205
法人税等の支払額	△320,347
営業活動によるキャッシュ・フロー	△524,261
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△98,070
無形固定資産の取得による支出	△992
敷金及び保証金の差入による支出	△65,078
敷金及び保証金の回収による収入	234
その他	△591
投資活動によるキャッシュ・フロー	△164,497
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	600,000
短期借入金の返済による支出	△195,017
長期借入れによる収入	100,000
長期借入金の返済による支出	△24,392
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△159,838
財務活動によるキャッシュ・フロー	320,750
現金及び現金同等物に係る換算差額	△90
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△368,098
現金及び現金同等物の期首残高	1,139,525
現金及び現金同等物の四半期末残高	771,426

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高および営業損益売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,610,055	90,720	2,700,775	—	2,700,775
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	191	191	△191	—
計	2,610,055	90,912	2,700,967	△191	2,700,775
営業利益又は営業損失（△）	65,776	△2,471	63,305	—	63,305

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘

b. 所在地別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

c. 海外売上高

当第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科目	前第1四半期連結累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年6月30日)
	金額
I 売上高	2,666,663
II 売上原価	956,664
売上総利益	1,709,999
III 販売費及び一般管理費	1,546,145
営業利益	163,853
IV 営業外収益	21,778
1. 受取利息	405
2. 為替差益	20,766
3. その他	607
V 営業外費用	5,124
支払利息	5,124
経常利益	180,508
税金等調整前四半期純利益	180,508
法人税、住民税及び事業税	66,338
法人税等調整額	23,511
四半期純利益	90,658

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)
区分	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
1. 営業収入	2,819,234
2. 商品の仕入支出	△1,351,662
3. 人件費支出	△582,233
4. その他の営業支出	△976,277
小計	△90,939
5. 利息の受取額	336
6. 利息の支払額	△5,194
7. その他収入	4,174
8. その他支出	△189
9. 法人税等の支払額	△309,712
営業活動によるキャッシュ・フロー	△401,525
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1. 有形固定資産の取得による支出	△12,671
2. 無形固定資産の取得による支出	△1,785
3. 敷金保証金等の取得による支出	△11,040
4. 敷金保証金等の解約による収入	571
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,925
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1. 短期借入による収入	400,000
2. 短期借入金の返済による支出	△60,000
3. 長期借入金の返済による支出	△13,314
4. 自己株式の取得による支出	△2
5. 配当金の支払額	△159,990
財務活動によるキャッシュ・フロー	166,693
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	348
V 現金及び現金同等物の減少額	△259,408
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,726,388
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,466,980

(3) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日）

	ブライダルジュ エリー事業 (千円)	ウエディングブ ロデュース事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高	2,575,341	91,321	2,666,663	—	2,666,663
営業費用	2,407,335	95,474	2,502,809	—	2,502,809
営業利益または営業損失 (△)	168,006	△4,152	163,853	—	163,853

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

b. 所在地別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

c. 海外売上高

前第1四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。